

(11)Publication number : 10-271311
(43)Date of publication of application : 09.10.1998

(51)Int.Cl.	H04N 1/32
	G06F 13/00
	H04L 12/54
	H04L 12/58
	H04M 11/00
	H04N 1/00

(21)Application number : 09-075518
(22)Date of filing : 27.03.1997

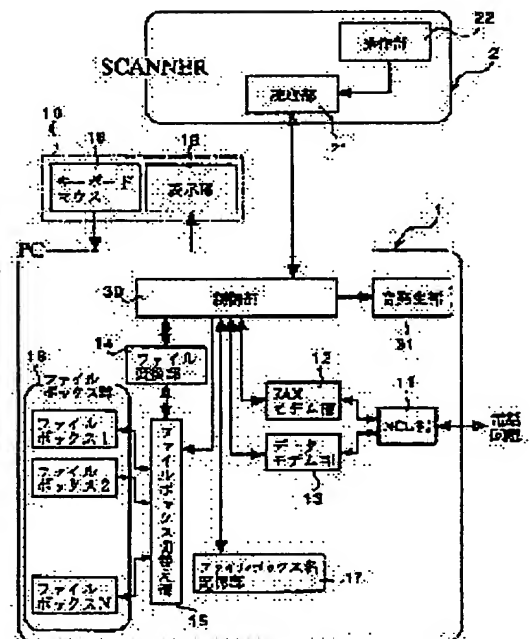
(71)Applicant : SANYO ELECTRIC CO LTD
(72)Inventor : HOSODA SATOSHI

(54) DATA COMMUNICATION EQUIPMENT

(57)Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a data communication equipment, capable of easily executing management of which the has been transmitted to which.

SOLUTION: A file box name storing part 17 stores corresponding relation data between an address to be transmitted and a file box name. When a user inputs an address to be transmitted from an operation part 10, a control part 30 provides the address to the storing part 17, acquires a file box number and controls a file box switching part 15, so as to select the file box of the file box number.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

特開平10-271311

(43) 公開日 平成10年(1998)10月9日

(51) Int.Cl.⁶ 識別記号

H 0 4 N 1/32
G 0 6 F 13/00
H 0 4 L 12/54
12/58
H 0 4 M 11/00

3 5 1

3 0 2

F I

H 0 4 N 1/32 Z
G 0 6 F 13/00 3 5 1 G
H 0 4 M 11/00 3 0 2
H 0 4 N 1/00 1 0 7 A
H 0 4 L 11/20 1 0 1 C

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 9 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平9-75518

(22) 出願日 平成9年(1997)3月27日

(71) 出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72) 発明者 細田 聡

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三

洋電機株式会社内

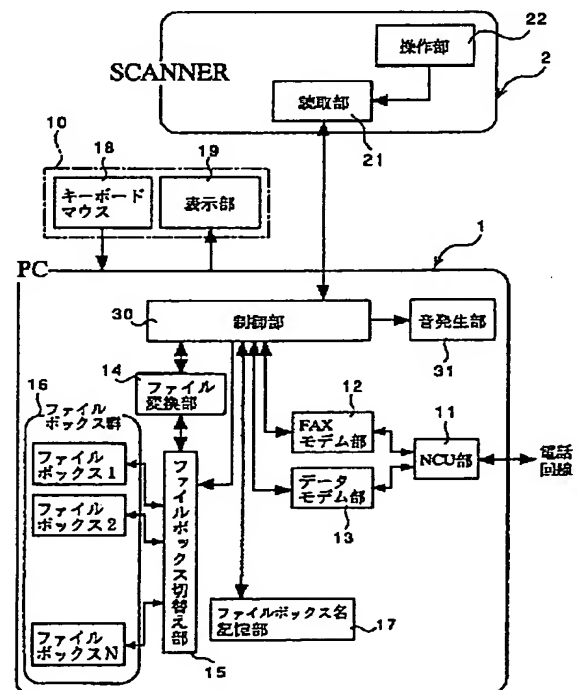
(74) 代理人 弁理士 鳥居 洋

(54) 【発明の名称】 データ通信装置

(57) 【要約】

【課題】 どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行えるデータ通信装置を提供する。

【解決手段】 ファイルボックス名記憶部17には、送信先アドレスとファイルボックス番号との対応関係データが格納されている。使用者が操作部10にて送信先アドレスを入力すると、制御部30は、当該アドレスを前記ファイルボックス名記憶部17に与えてファイルボックス番号を取得し、ファイルボックス群16中の前記番号のファイルボックスが選択されるようにファイルボックス切替部15を制御する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 原稿を読み取る読取手段と、送信先を入力する送信先入力手段と、前記読取手段にて読み取られた原稿を、前記送信先入力手段にて入力された送信先によって特定されるファイルボックスにファイリングするファイリング手段とを備えたことを特徴とするデータ通信装置。

【請求項2】 原稿を読み取る読取手段と、使用者によるファイルボックスの指定を受け付ける指定手段と、前記読取手段にて読み取られた原稿を、使用者により指定されたファイルボックスにファイリングするファイリング手段とを備えたことを特徴とするデータ通信装置。

【請求項3】 原稿を読み取る読取手段と、送信先を入力する送信先入力手段と、使用者によるファイルボックスの指定を受け付ける指定手段と、前記読取手段にて読み取られた原稿を、前記送信先入力手段にて入力された送信先によって特定されるファイルボックス及び／又は使用者により指定されたファイルボックスにファイリングするファイリング手段とを備えたことを特徴とするデータ通信装置。

【請求項4】 前記読取手段がデータ通信装置本体部と別個に設けられているとともに、前記送信先入力手段が前記読取手段及び／又はデータ通信装置本体部に設けられていることを特徴とする請求項1又は請求項3のいずれかに記載のデータ通信装置。

【請求項5】 前記読取手段がデータ通信装置本体部と別個に設けられているとともに、前記指定手段が前記読取手段及び／又はデータ通信装置本体部に設けられていることを特徴とする請求項2又は請求項3のいずれかに記載のデータ通信装置。

【請求項6】 前記送信先入力手段にて入力された送信先に対応するファイルボックスが存在しない場合に警告を行うとともに、前記送信先に対応したファイルボックスを新規に作成する処理と前記送信先によらない任意のファイルボックスを新規に作成する処理とファイルボックスを新規作成しないで送信を行う処理のうち使用者により選択された処理を実行する処理手段を備えたことを特徴とする請求項1、請求項3、又は請求項4のいずれかに記載のデータ通信装置。

【請求項7】 前記指定手段にて指定されたファイルボックスが存在しない場合に警告を行うとともに、前記指定されたファイルボックスを新規に作成する処理と指定の再入力の処理のうち使用者により選択された処理を実行する処理手段を備えたことを特徴とする請求項2、請求項3、又は請求項5に記載のデータ通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、電子メールアドレスやファクシミリデータなどの送受信を行うデータ通信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】データ通信装置の一つであるファクシミリ装置は、電話回線等を用いて文書情報を電氣的に遠隔地に伝達する手段であり、デジタルスキャナー等を用いて原稿情報を読み取り、符号化圧縮処理して送信することを基本構成としている。しかし、近年では、パーソナルコンピュータやワードプロセッサ等のコンピュータ装置で作成した文書情報を直接ファクシミリ送信するためのファクシミリボード等が開発され、これらコンピュータ装置、ファクシミリボード、及びファクシミリ装置間のインターフェースが標準化されてきている（EIA規格 Class 1, 2等）。それに伴って、これら標準インターフェースに準じた汎用ファクシミリ装置アプリケーションソフトウェアが供給されるようになってい

【0003】一方、近年においては、インターネットを利用した電子メールによる情報の伝達が活用されるようになってきている。インターネットを利用して電子メールを送信するには、パーソナルコンピュータ上でデータ（通信文）を作成し、インターネットソフトウェア（インターネット経由でファイルを送受信するアプリケーションソフト）により送信を行い、また、電子メールを受信するときには、インターネットソフトが起動中であれば、サーバに対して例えば一定時間毎にアクセスが行われてメールの有無がチェックされ、メールがあれば、読み出しソフトを起動させることにより、メールを読むことができるようになってい

【0004】そして、図5に示しているように、スキャナ101とパーソナルコンピュータ102とを接続するとともに、パーソナルコンピュータ101にFAXモデム103およびデータモデム104を備え、ファクシミリ通信機能と電子メール通信機能を兼ね備えさせた構成も考えられる。この図5に示した構成のデータ通信装置にあっては、スキャナ101の画像読取部101aにて原稿を読み取り、この原稿データをパーソナルコンピュータ102に与えることになる。そして、パーソナルコンピュータ102は、受け取った原稿データをファイル変換部105にて送信ファイル（電子メールファイル或いは、FAXファイル）に変換してファイルボックス106に一括して格納し、相手先が電子メールを用いる相手先であれば、ファイルボックス106から電子メールデータを取り出して相手に送信し、相手先がファクシミリ通信を用いる相手先であれば、ファイルボックス106から電子メールデータを取り出し、ファイル変換部105にてファクシミリ画像データに変換して相手に送信する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のごとく、送信ファイルをファイルボックス106に一括して格納した場合、どこにどのファイルを送信したのか

が分かりにくい。また、ファイルは任意のアプリケーション上で管理されているため、ファイルマネージャーが管理している或るファイルボックスに送信原稿を管理させようとした場合、前記アプリケーション上で管理されているファイルを別個のファイルボックスに移し変える手間が必要になっている。

【0006】この発明は、上記の事情に鑑み、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行えるデータ通信装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明のデータ通信装置は、原稿を読み取る読取手段と、送信先を入力する送信先入力手段と、前記読取手段にて読み取られた原稿を、前記送信先入力手段にて入力された送信先によって特定されるファイルボックスにファイリングするファイリング手段とを備えたことを特徴とする。

【0008】上記の構成であれば、送信ファイルは送信先によって特定されるファイルボックスに自動的にファイリングされるので、送信ファイルを一つのファイルボックスに一括して格納する場合に比べ、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行えるようになる。

【0009】また、この発明のデータ通信装置は、原稿を読み取る読取手段と、使用者によるファイルボックスの指定を受け付ける指定手段と、前記読取手段にて読み取られた原稿を、使用者により指定されたファイルボックスにファイリングするファイリング手段とを備えたことを特徴とする。

【0010】上記の構成であれば、送信ファイルは使用者により指定されたファイルボックスに自動的にファイリングされるので、送信ファイルを一つのファイルボックスに一括して格納する場合に比べ、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行えるようになる。

【0011】また、この発明のデータ通信装置は、原稿を読み取る読取手段と、送信先を入力する送信先入力手段と、使用者によるファイルボックスの指定を受け付ける指定手段と、前記読取手段にて読み取られた原稿を、前記送信先入力手段にて入力された送信先によって特定されるファイルボックス及び／又は使用者により指定されたファイルボックスにファイリングするファイリング手段とを備えたことを特徴とする。

【0012】前記読取手段がデータ通信装置本体部と別個に設けられているとともに、前記送信先入力手段が前記読取手段及び／又はデータ通信装置本体部に設けられていてもよい。また、前記読取手段がデータ通信装置本体部と別個に設けられているとともに、前記指定手段が前記読取手段及び／又はデータ通信装置本体部に設けられていてもよい。

【0013】また、この発明のデータ通信装置は、前記

送信先入力手段にて入力された送信先に対応するファイルボックスが存在しない場合に警告を行うとともに、前記送信先に対応したファイルボックスを新規に作成する処理と前記送信先によらない任意のファイルボックスを新規に作成する処理とファイルボックスを新規作成しないで送信を行う処理のうち使用者により選択された処理を実行する処理手段を備えたことを特徴とする。また、前記指定手段にて指定されたファイルボックスが存在しない場合に警告を行うとともに、前記指定されたファイルボックスを新規に作成する処理と指定の再入力の処理のうち使用者により選択された処理を実行する処理手段を備えたことを特徴とする。

【0014】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施の形態を図に基づいて説明する。

【0015】図1は、この実施の形態のデータ通信装置の概略構成を示したブロック図である。この形態のデータ通信装置はスキャナ2とパーソナルコンピュータ1とから成り、このパーソナルコンピュータ1が電話回線50に接続されることにより、遠隔地に設けられた他のパーソナルコンピュータ或いはファクシミリ装置に対して、電子メール通信やファクシミリ通信が行えるようになっている。

【0016】前記電話回線50にはNCU（ネットワークコントロールユニット）11が接続されている。そして、このNCU11には、FAXモデム部12及びデータモデム部13が接続されている。FAXモデム部12はFAXデータを変復調するときに用いられ、データモデム部13は電子メールデータを変復調するときに用いられる。これらFAXモデム部12とデータモデム部13の切替えは、前記NCU11によって行われる。

【0017】ファイル変換部14は、前記スキャナ2にて読み取られた原稿を電子メールファイルに変換してファイルボックス切替え部15を介してファイルボックス群16の特定のファイルボックスに与えるとともに、制御部30がFAXファイルへの変換を要求してきたときには、電子メールファイルをFAXファイルに変換して制御部30に与えるようになっている。

【0018】ファイルボックス切替え部15は、ファイルボックス群16のどの番号のファイルボックス（No. 1～N）に前記電子メールファイルを格納するかを選択を行うようになっている。また、ファイルボックス名記憶部17には、送信先アドレスとファイルボックス番号との対応関係データが格納されている。前記の制御部30は使用者が後述する操作部10を用いて入力した送信先アドレスを、前記ファイルボックス名記憶部17に与えることによりファイルボックス番号を取得し、当該番号のファイルボックスが選択されるようにファイルボックス切替え部15を制御する。なお、後述する図3のフローチャートに対応するには、ファイルボックス名

記憶部17に使用者が指定したファイルボックス名とファイルボックス番号との対応関係データが格納されていればよく、前記の制御部30は使用者が指定したファイルボックス名を、前記ファイルボックス名記憶部17に与えることによりファイルボックス番号を取得することになる。

【0019】操作部10は、入力部（キーボード或いはマウスなどのポインティングデバイスなど）18と表示部（CRTやLCDなど）19とから成り、幾つかの操作キーとして機能するようになっている。即ち、前記表示部19には、操作内容に対応する表示領域（アイコン等のイメージ）がアプリケーションソフトにより幾つか作成されており、前記マウスにてカーソルを目的の表示領域上に位置させてクリックすることで目的とする操作をパーソナルコンピュータ1に行わせることができるようになっている。

【0020】操作内容（操作キー）としては、送信する相手先アドレスを入力するための送信先設定キー、送信ファイルを記憶させるファイルボックス先を任意に設定するファイルボックス設定キー、送信先ファイルボックスと任意のファイルボックスのどちらを選択するか或いは両方を選択するか等を設定する記憶設定キー、及び読取開始キーなどがある。また、前記表示部19は、後述する警告処理において制御手段30の処理により「ファイルボックスが見つかりません」などの表示をするようになっている。

【0021】音発生部31は、後述する警告処理において制御手段30の処理により、例えば「ファイルボックスが見つかりません」といった音声送出処理、或いは警告音を送出する処理を行うようになっている。

【0022】制御部30は、上述した各構成要素の制御を行うとともに、パーソナルコンピュータ1における全体的な制御を行う。

【0023】スキャナ2には、読取部21および操作部22が設けられている。読取部21は、CIS（コンタクトイメージセンサー）、原稿サイズ検出スイッチ、及び原稿搬送ローラ（いずれも図示せず）などにより構成されている。また、操作部22には各種の操作キーが設けられているが、その内容は、前述したパーソナルコンピュータ1の操作部10と同様、送信する相手先アドレスを入力するための送信先設定キー、送信ファイルを記憶させるファイルボックス先を任意に設定するファイルボックス設定キー、送信先ファイルボックスと任意のファイルボックスのどちらを選択するか或いは両方を選択するか等を設定する記憶設定キー、及び読取開始キーなどがある。

【0024】次に、図2のフローチャートに基づいて通信処理動作を説明する。まず、使用者は、スキャナ2に原稿をセットし（ステップ1）、送信先アドレス（電子メールアドレス又はファクシミリ番号）を入力し（ステ

ップ2）、更に、読取開始キーを押す（ステップ3）。送信アドレスの入力や読取開始キーの操作は、パーソナルコンピュータ1の操作部10で行ってもよいし、スキャナ2の操作部22で行ってもよい。

【0025】前記読取開始キーの操作により、スキャナ2の読取部21にて原稿が読み取られ（ステップ4）、原稿の内容がスキャナ2からパーソナルコンピュータ1へと送出され、パーソナルコンピュータ1のファイル変換部14によって原稿は電子メールファイルに変換される（ステップ5）。次に、送信先アドレスに対応するファイルボックスが存在するか否かを判断する（ステップ6）。

【0026】送信先アドレスに対応するファイルボックスが存在する場合には、電子メールファイルを送信先アドレスに対応するファイルボックスに格納する（ステップ7）。次に、送信先が電子メールアドレスか否かを判断する（ステップ8）。この判断は、例えば、送信先アドレス中に“@”などのファクシミリ番号としては通常存在しないものが含まれているか否かにより行うことができる。

【0027】相手先アドレスが電子メールアドレスであれば、電子メールファイルをデータモデム13にて変調し（ステップ16）、所定の手順に従って相手先に電子メールファイルを送信する（ステップ17）。一方、相手先アドレスが電子メールアドレスでない、即ち、ファクシミリ番号であると判断されたなら、電子メールファイルをFAXデータに変換し（ステップ9）、これをFAXモデム12にて変調し（ステップ10）、所定の手順に従って相手先にFAXデータを送信する（ステップ11）。

【0028】前記のステップ6において、送信先アドレスに対応するファイルボックスが存在しないと判断された場合には、音発生部31を用いて警告音を鳴動させるとともに、表示部19を用いて警告表示を行う（ステップ12）。そして、前記表示部19を用いて、「送信先に応じたファイルボックスを新規に作成する？」といったメッセージを表示し、使用者のYES/NOの入力を待つ（ステップ13）。使用者によりYESの入力がなされたなら、ステップ2にて入力された送信先アドレスに対応したファイルボックスを新規に作成し（ステップ14）、ステップ7に進む。なお、送信先アドレスに対応したファイルボックスを新規に作成するときには、ファイルボックス名記憶部17において新たに送信先アドレスとファイルボックスの番号との対応関係データが作成される。一方、NOの入力がなされたなら、前記表示部19を用いて、「別名のファイルボックスを新規に作成する？」といったメッセージを表示し、使用者のYES/NOの入力を待つ（ステップ15）。

【0029】ステップ15においてNOの入力がなされたなら、ファイルボックスを作成せずにステップ8に進

んで送信処理を実行する一方、YESの入力がなされたなら、使用者による任意の名前の入力を受け付ける処理を行ってその名前のファイルボックスを新規に作成する(ステップ18)。そして、ファイルボックス名が重複して存在するか否かを判断し(ステップ19)、重複して存在する場合には、ステップ12に進んで、例えば「ファイルボックス名が既に存在します」といった警告表示を行う。一方、重複して存在しない場合には、原稿を前記名前が与えられたファイルボックスに格納し(ステップ20)、ステップ8に進む。

【0030】以上説明したように、この実施の形態のデータ通信装置であれば、電子メールファイルは送信先によって特定される番号のファイルボックス(ファイルボックス群16中のNo. 1～Nのいずれかの番号のファイルボックス)に自動的にファイリングされるので、電子メールファイルを一つのファイルボックスに一括して格納する構成に比べ、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行える。また、送信先に対応したファイルボックスが存在しない場合でも、使用者が任意に指定したファイルボックス名のファイルボックスに電子メールファイルが自動的にファイリングされるので、かかる場合も電子メールファイルを一つのファイルボックスに一括して格納する場合に比べ、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行えるようになる。

【0031】次に、図3のフローチャートに基づいて通信処理動作の他の例を説明する。まず、使用者は、スキヤナ2に原稿をセットし(ステップ31)、送信先アドレス(電子メールアドレス又はファクシミリ番号)を入力する(ステップ32)。更に、使用者は原稿(送信ファイル)を記憶させるファイルボックス名(任意のファイルボックス名)を入力するとともに(ステップ33)、原稿(送信ファイル)をどのファイルボックスに記憶させるのかの入力を行う(ステップ34)。なお、このステップ34における処理は、例えば、表示部19上に、①使用者指定ファイルボックス名、②送信先対応ファイルボックス名、③使用者指定ファイルボックス名及び送信先対応ファイルボックス名の3項目を表示し、いずれかの番号を使用者が入力することにより行うことができる。

【0032】上記入力処理の後に使用者が読取開始キーを押すと(ステップ35)、スキヤナ2の読取部21にて原稿が読み込まれ(ステップ36)、原稿の内容がスキヤナ2からパーソナルコンピュータ1へと送出され、パーソナルコンピュータ1のファイル変換部14によって原稿は電子メールファイルに変換される(ステップ37)。

【0033】以後は、前記ステップ34において、①使用者指定ファイルボックス名が選択された場合を説明していく。原稿を電子メールファイルに変換した後、使用

者が指定したファイルボックス名が存在するか否かを判断する(ステップ38)。使用者指定ファイルボックス名が存在する場合には、当該ファイルボックスに電子メールファイルを格納する(ステップ39)。次に、送信先が電子メールアドレスか否かを判断する(ステップ40)。相手先アドレスが電子メールアドレスであれば、電子メールファイルをデータモデム13にて変調し(ステップ48)、所定の手順に従って相手先に電子メールファイルを送信する(ステップ49)。一方、相手先アドレスが電子メールアドレスでない、即ち、ファクシミリ番号であると判断されたなら、電子メールファイルをFAXデータに変換し(ステップ41)、これをFAXモデム12にて変調し(ステップ42)、所定の手順に従って相手先にFAXデータを送信する(ステップ43)。

【0034】前記のステップ38において、使用者指定ファイルボックスが存在しないと判断された場合には、音発生部31を用いて警告音を鳴動させるとともに、表示部19を用いて警告表示を行う(ステップ44)。そして、前記表示部19を用いて、「新規にファイルボックスを作成する?」といったメッセージを表示し、使用者のYES/NOの入力を待つ(ステップ45)。使用者によりYESの入力がなされたなら、ステップ33にて入力された使用者指定ファイルボックス名のファイルボックスを新規に作成し(ステップ46)、ステップ39に進む。

【0035】一方、使用者によりNOの入力がなされたなら、表示部19を用いて、「ファイルボックス名の入力をやり直しますか?」といったメッセージを表示し、使用者のYES/NOの入力を待つ(ステップ47)。使用者によりNOの入力がなされたなら、ファイルボックスを作成せずにステップ40に進み、送信処理を行う。一方、使用者によりYESの入力がなされたなら、ファイルボックス名を変更してステップ38に進む。

【0036】上記図3のフローチャートに基づく通信処理が行われる場合には、送信ファイルは使用者により指定されたファイルボックスに自動的にファイリングされるので、送信ファイルを一つのファイルボックスに一括して格納する場合に比べ、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行えるようになる。

【0037】なお、ステップ34において②送信先対応ファイルボックス名が選択された場合には、図2のフローチャートに準じた処理が行われる。また、③使用者指定ファイルボックス名及び送信先対応ファイルボックス名が選択された場合には、原稿は使用者が指定したファイルボックス及び送信先対応ファイルボックスの両方に格納される。そして、使用者が指定したファイルボックスが存在しない場合には図3のステップ44に進み、送信先に対応するファイルボックスが存在しない場合には、図2のステップ12に進むようになっていけばよ

い。

【0038】図4は、データ通信装置の変形例を示したブロック図であり、図1と同一の機能ブロックには、同一の符号を付記している。このデータ通信装置は、スキャナ部とパーソナルコンピュータとが一体化された構成を有しており、例えば、ファクシミリ複合装置として存在し得る。従って、ポインティングデバイス18と表示部19とから成る操作部10に代えて、専用のオペレーションパネルを備える構成でもよいものである。

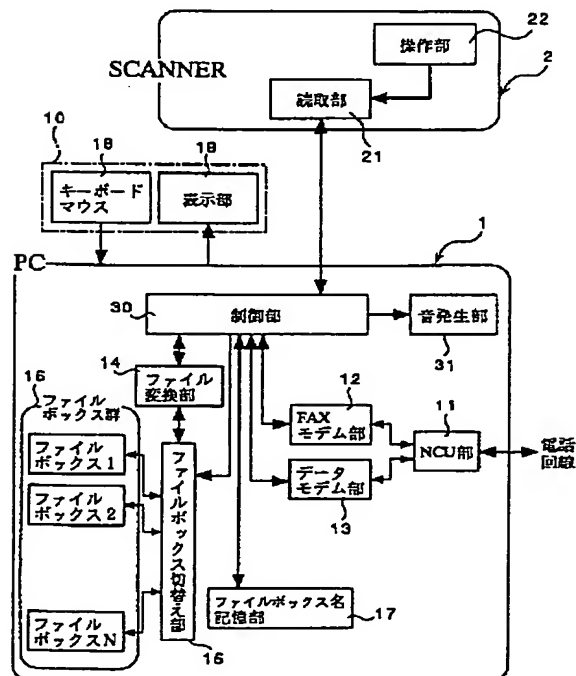
【0039】なお、図2及び図3のフローチャートに示したデータ通信処理では、原稿を電子メールファイルに変換した後に送信先が電子メールアドレスか否かを判断するようにしたが、送信先が電子メールアドレスか否かを先に判断し、その判断結果によって原稿を電子メールファイルに変換するか或いはファクシミリファイルに変換するかを選択するようにしてもよいものである。

【0040】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば、送信ファイルを一つのファイルボックスに一括して格納する場合に比べ、どこにどのファイルを送信したかといった管理が容易に行える等の効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施の形態のデータ通信装置の概略



【図1】

構成を示したブロック図である。

【図2】この発明の実施の形態のデータ通信処理動作例を示したフローチャートである。

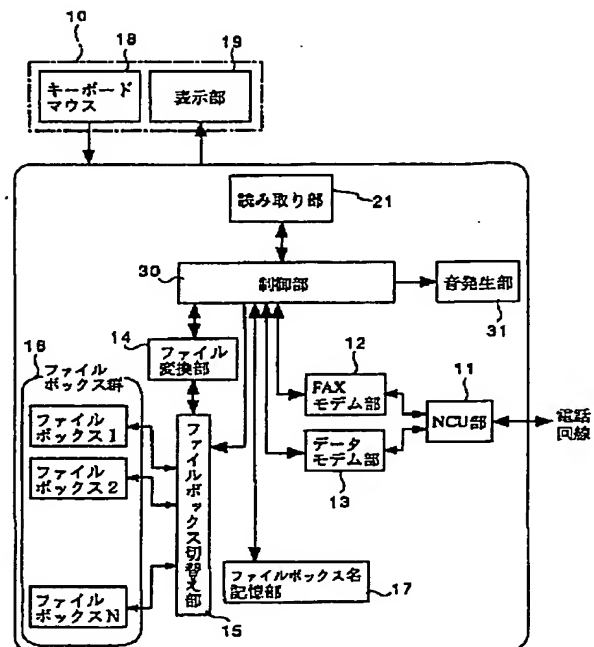
【図3】この発明の実施の形態のデータ通信処理動作の他の例を示したフローチャートである。

【図4】この発明の他の実施の形態のデータ通信装置の概略構成を示したブロック図である。

【図5】従来のデータ通信装置の概略構成を示したブロック図である。

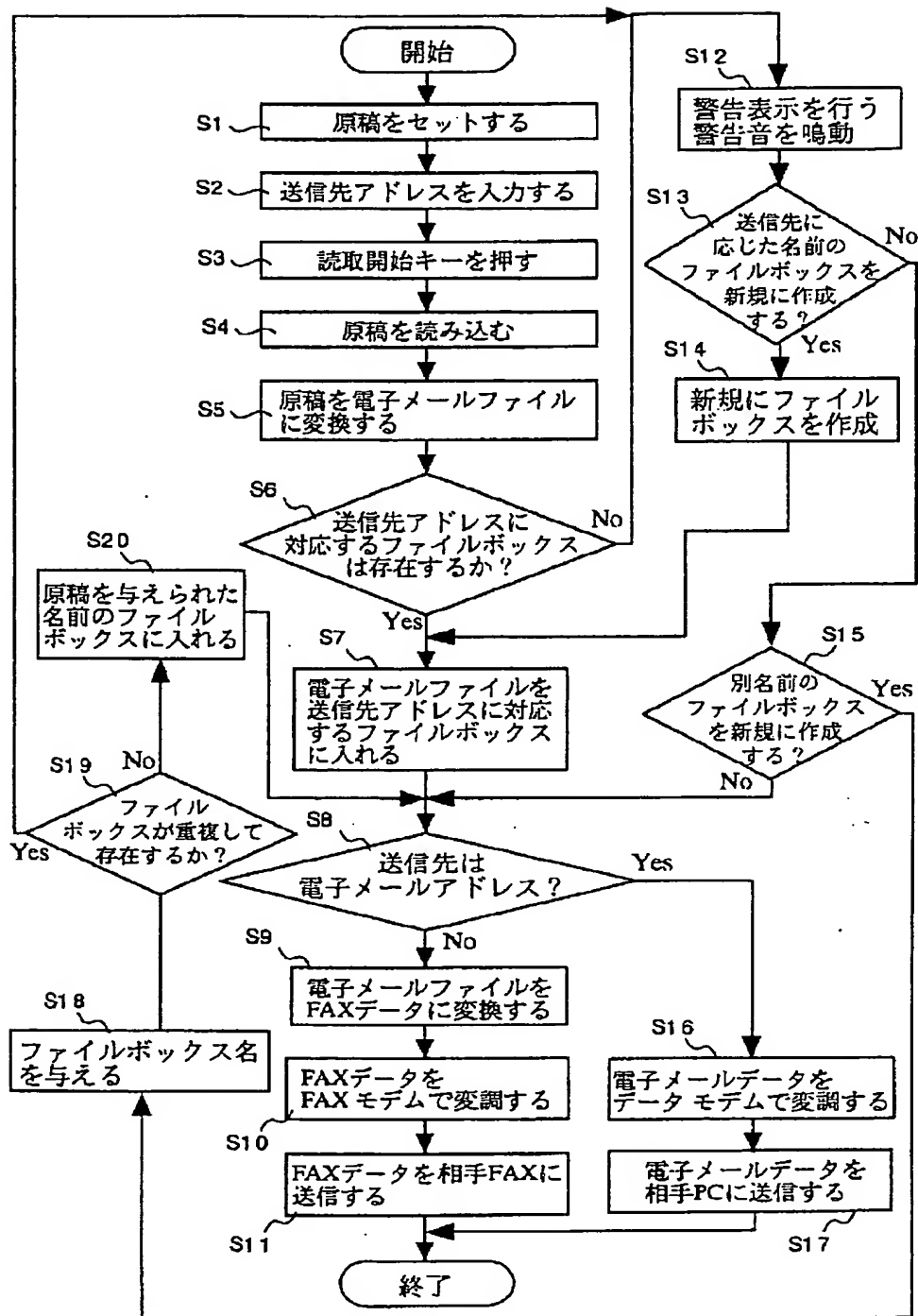
【符号の説明】

- 1 パーソナルコンピュータ
- 2 スキャナ
- 11 NCU部
- 12 FAXモデム部
- 13 データモデム部
- 14 ファイル変換部
- 15 ファイルボックス切替部
- 16 ファイルボックス群
- 17 ファイルボックス名記憶部
- 20 21 読取部
- 22 操作部
- 30 制御部
- 31 音発生部

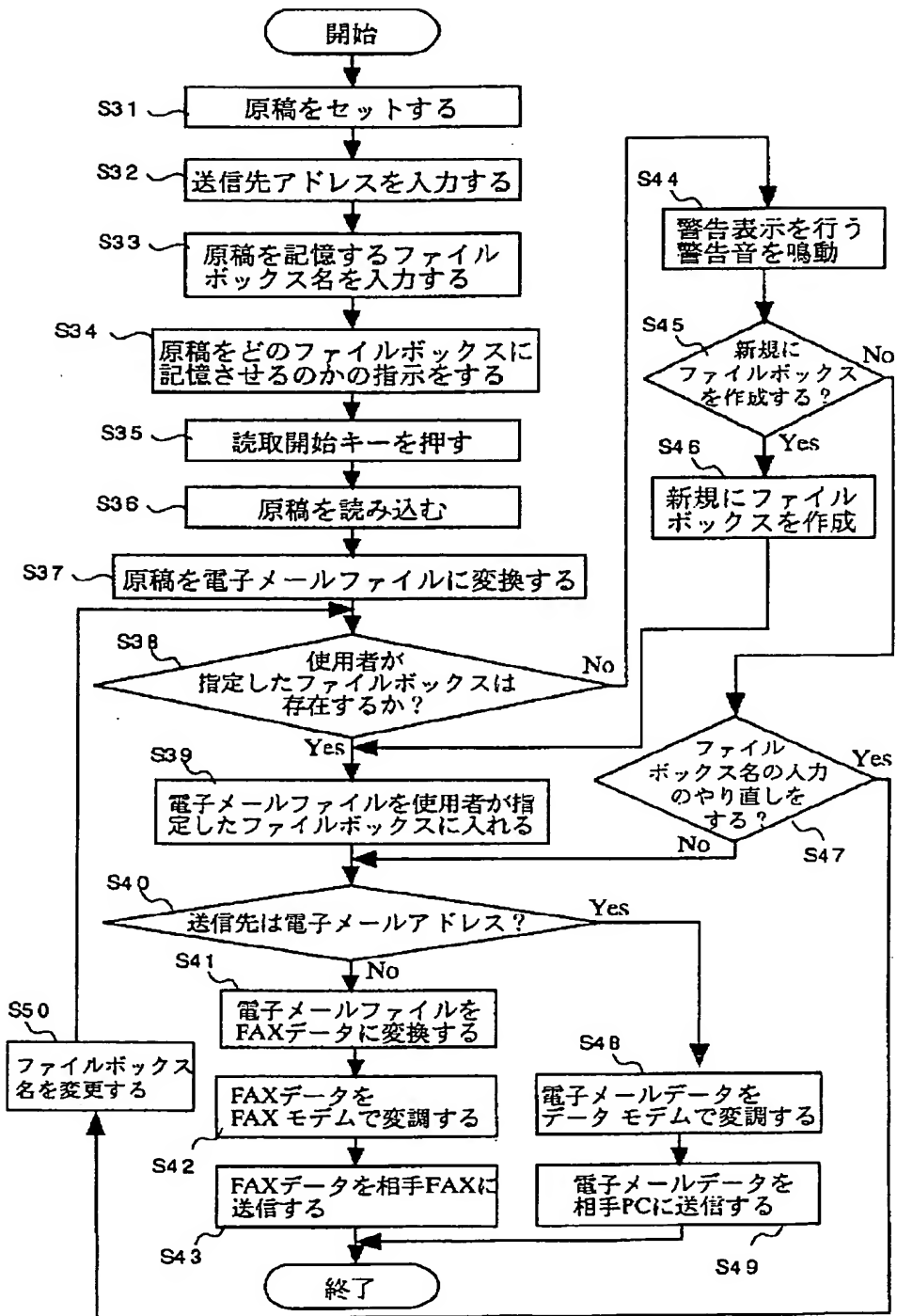


【図4】

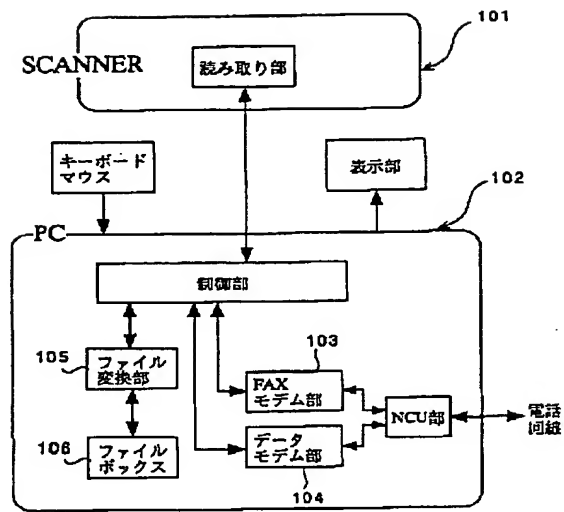
【図2】



【图 3】



【図5】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

H04N 1/00

識別記号

107

F I